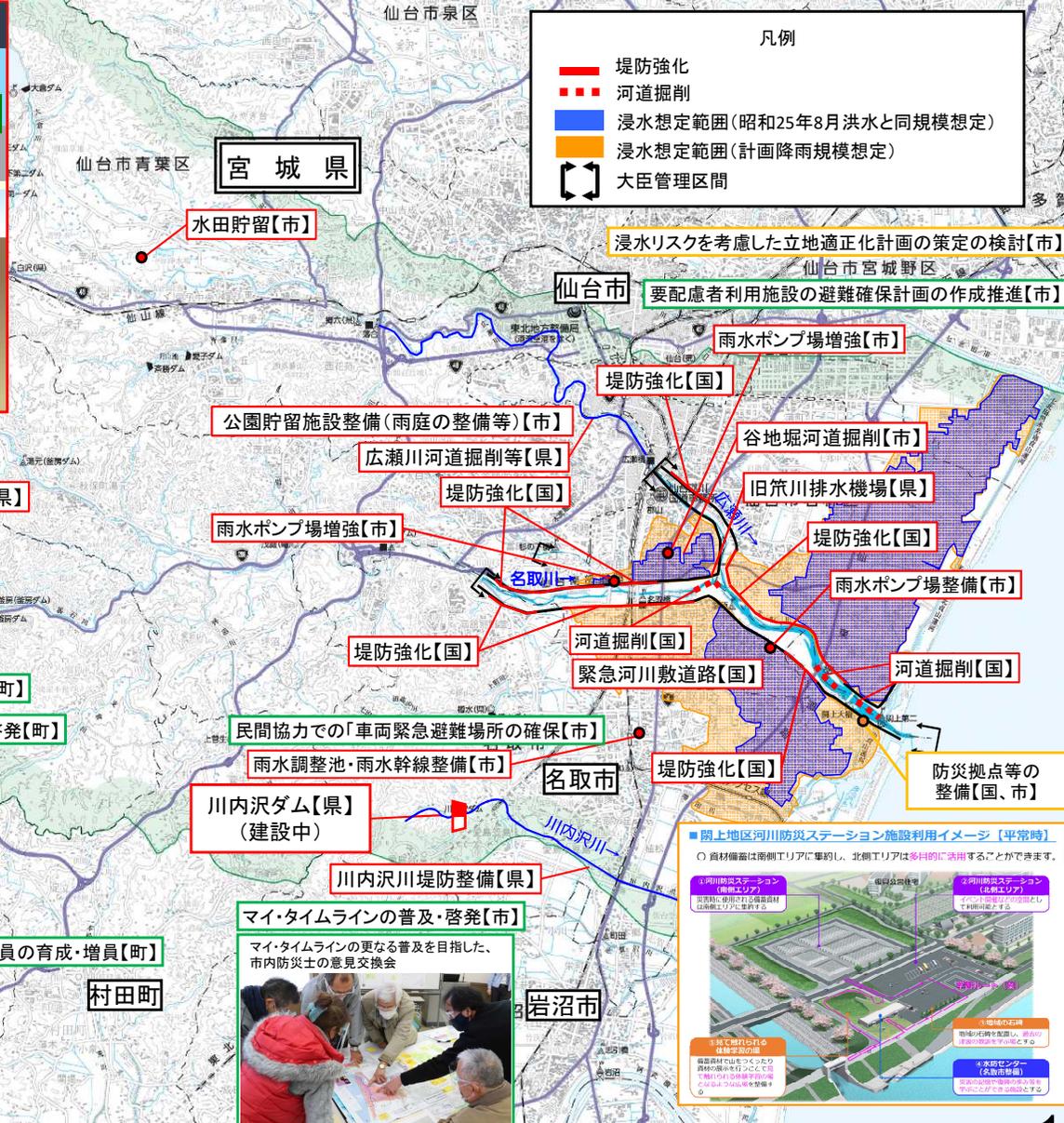
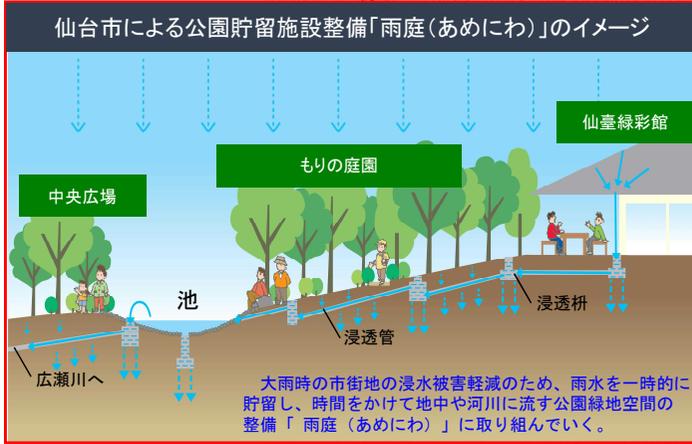


名取川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

○ 令和元年東日本台風により各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、名取川水系においては、都市部の土地利用特性を考慮し、河川整備に併せて、公園貯留施設整備などの対策を組み合わせた流域治水の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和25年8月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**
- 河川区域での対策
 - ・河道掘削、堤防強化、緊急河川敷道路
 - ・川内沢ダム建設
 - ・利水ダム等7ダムにおける事前放流等の実施・体制構築 (関係者: 国、宮城県、東北電力(株)、沿川市町、土地改良区など)
 - 集水域での対策
 - ・排水機場整備
 - ・雨水ポンプ場整備、雨水調整池、雨水幹線、水田貯留
 - ・公園貯留施設整備
 - ・森林整備・治山対策 等

- 被害対象を減少させるための対策**
- 氾濫域での対策
 - ・防災拠点等の整備
 - ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定の検討 等

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**
- 氾濫域での対策
 - ・洪水浸水想定区域図の作成・見直し
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画策定及び訓練促進
 - ・「マイ・タイムライン」作成の普及促進
 - ・自主防災組織の設置促進と人材育成
 - ・水害リスク空白域の解消 等

■ グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

※対策事業の代表箇所を旗揚げしている。 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

名取川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

- 名取川では、本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 仙台・名取市街地等での重大災害の発生を未然に防ぐため、直轄管理区間で水位低下を目的とした河道掘削等を主に実施するとともに、防災拠点等の整備を実施し防災体制等の強化を図る。
 - 【中期】 川内沢川の地域を洪水から守るため、川内沢ダム建設を推進するとともに、「マイ・タイムライン」作成の普及促進等、避難体制等の強化を図る。
 - 【中長期】 名取川及び広瀬川の浸水被害を防ぐため、堤防強化や河道掘削等を実施するとともに、内水被害軽減対策（雨水貯留施設の整備等）を実施し、流域全体の安全度向上を図る。

【ロードマップ】 ※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	仙台河川国道事務所、宮城県 仙台市	大臣管理区間の河道掘削を実施 (仙台河川国道事務所)		
	堤防強化	仙台河川国道事務所、宮城県	県管理区間の河道掘削を実施 (宮城県)		
	川内沢ダム建設	宮城県	ダム本体完成(宮城県)		
	雨水貯留施設等の整備	仙台市、名取市 等	公園貯留施設整備(仙台市)		
	森林整備・治山対策	東北森林管理局、宮城県、 森林整備センター	幹線函渠と貯留設備の整備(名取市)		
被害対象を減少させるための対策	防災拠点等の整備	仙台河川国道事務所、名取市	閑上地区河川防災ステーション等整備 (仙台河川国道事務所、名取市)		
	浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定の検討	仙台市	立地適正化計画の策定の検討(仙台市)		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	要配慮者利用施設の避難確保計画策定及び訓練促進	仙台河川国道事務所、宮城県、 流域市町 等	避難確保計画作成推進(市町)		
	「マイ・タイムライン」作成の普及促進	仙台河川国道事務所、宮城県、 流域市町 等	作成支援、講習会等の実施(市町)		
グリーンインフラの取組	閑上地区かわまちづくり	仙台河川国道事務所、名取市			
	生物の多様な生育環境の保全	仙台河川国道事務所、宮城県、 仙台市			
	公園貯留施設整備「雨庭」	仙台市	【事業費（R2年度以降の残事業費）】		
	森林整備、治山対策による水源涵養機能の維持増進	東北森林管理局、宮城県、 森林整備センター			
	小中学校などにおける河川環境学習	仙台河川国道事務所			
	釜房ダムを活用したインフラツーリズム	仙台河川国道事務所			

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

■ 河川対策
 全体事業費 約200億円 ※1
 対策内容 河道掘削、堤防強化、緊急河川敷道路
 川内沢ダム建設 等
 ■ 下水道対策
 全体事業費 約220億円 ※2
 対策内容 雨水ポンプ場整備、雨水調整池、
 雨水幹線 等

※1：直轄及び各圏域の河川整備計画の残事業費を記載
 ※2：各市町における下水道事業計画の残事業費を記載

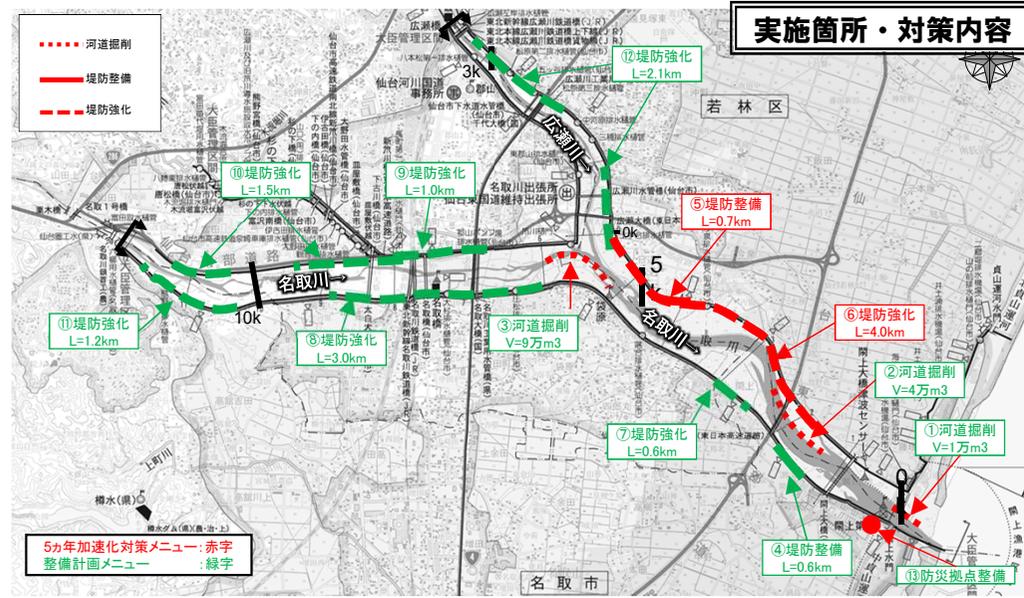
名取川水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～東北最大の都市河川整備と歴史を活かしたまちづくりの総合的な流域治水対策～

進捗と効果(R4.3版)

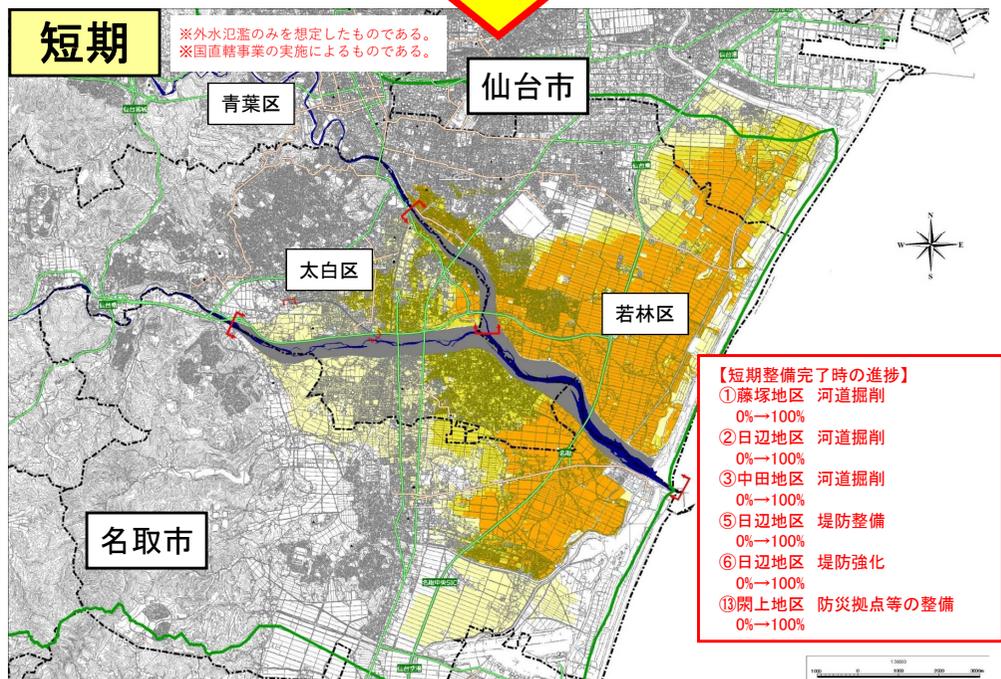
短期整備(5か年加速化対策)効果: 河川整備率 約84%→約93%

○日辺地区の堤防強化事業がR7に完了することで、背後にある東日本大震災復興事業における防災集団移転先を含めた地域の浸水リスクが軽減する。



区分	対策内容	区間	工程		
			短期(R2～R7年)	中期(R8～R12年)	中長期(R13～R20年)
氾濫をできるだけ防く・減らすための対策	河道掘削 48%→100%	①地区(藤塚)	100%		
		②地区(日辺)	100%		
		③地区(中田)	100%		
	堤防整備 65%→100%	④地区(閉上(上))		100%	
		⑤地区(日辺)		100%	
		⑥地区(日辺)		100%	
		⑦地区(閉上(上))			100%
		⑧地区(中田(上河原))			100%
		⑨地区(郡山)			100%
		⑩地区(雷田)			100%
堤防強化 25%→100%	⑪地区(柳野堂)			100%	
	⑫地区(若林)			100%	
	⑬閉上地区			100%	
総合対策を減少させるための対策	防災拠点等の整備	⑬閉上地区	100%		

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。



- 【短期整備完了時の進捗】
- ①藤塚地区 河道掘削 0%→100%
 - ②日辺地区 河道掘削 0%→100%
 - ③中田地区 河道掘削 0%→100%
 - ⑤日辺地区 堤防整備 0%→100%
 - ⑥日辺地区 堤防強化 0%→100%
 - ⑬閉上地区 防災拠点等の整備 0%→100%

※浸水範囲は、今後の調査・検討や対策内容等により変更となる場合がある。
 ※日辺地区の整備効果は、中頻度から中低頻度の間となっているため、上記図に表現されていない

名取川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）



整備率：93%

農地・農業用施設の活用



1市町村

(令和4年度末時点)

流出抑制対策の実施



6施設

(令和3年度実施分)

山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策



治山対策等の実施箇所 0箇所
(令和4年度実施分)

砂防関連施設の整備数 0施設
(令和4年度完成分)
※施工中 0施設

立地適正化計画における防災指針の作成



0市町村

(令和4年12月末時点)

避難のためのハザード情報の整備



洪水浸水想定区域 9河川

(令和4年9月末時点)
※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定区域 0団体
(令和4年9月末時点)

高齢者等避難の実効性の確保



避難確保計画 洪水 910施設
土砂 117施設
(令和4年9月末時点)

個別避難計画 0市町村
(令和4年1月1日時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

■雨庭の整備(仙台市)

大雨時の市街地の浸水被害軽減のため、雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地中や河川に流す公園緑地空間の整備「雨庭(あめにわ)」に取り組んでいく



■下水道の排水

■準用河川谷地掘改修事業(仙台市)

整備前(旧荒川合流部)

整備後



■下水道の排水施設(雨水ポンプ増強)

郡山ポンプ場

■雨水貯留施設整備(名取市)

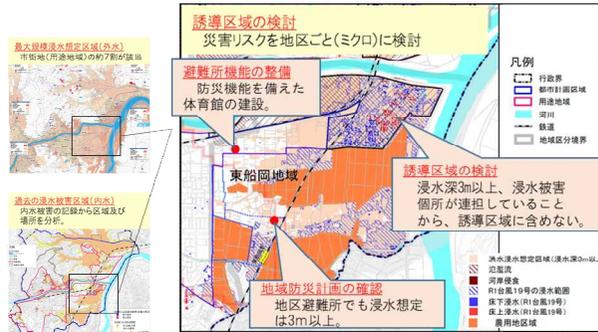
・県道仙台名取線(旧国道4号)から国道4号バイパスまでの約440m区間における雨水幹線の整備、下流側既設水路および接続先の承水路(放流制限量有)の流下能力が保たれるよう調整池(増田調整池)を整備し、未整備区域である29.7haの浸水軽減を図るものである
・平成29年度より貯留施設の整備に着手している



被害対象を減少させるための対策

- ・同県内の他水系流域市町村において、令和4年中に立地適正化計画の公表予定(柴田町)
- ・防災に対する方針等をまとめた防災指針を策定し、災害リスクを踏まえた誘導区域を検討中(柴田町)
- ・名取川水系においても、引き続き流域治水における防災まちづくりを推進するため密接に連携を図っていく

最大規模での浸水被害と過去の浸水(内水)被害の両面で災害リスクを詳細に分析し、地域防災計画の検証を行いながら、誘導区域を設定し、安全・安心で快適なコンパクトな市街地の誘導・形成を目指す。



■防災拠点等の整備(名取市)



被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

- ・青根地区周辺に雨量観測所がないことから、自主防災組織より町に対し雨量計の設置(川崎町)
- ・これにより、気象庁の警戒レベル発表を待つことなく自主防災組織による自主避難情報などが発信され、加えて大雨発生の前に雨水流出場所への土嚢設置、消防団による警戒活動など住民主体の防災体制が確立されている(川崎町)

川崎町(総務課)の“自主防災モデルケース”

雨量計を設置

●雨量データ測定開始!

1時間単位で記録。

●雨量データ公開開始!

「青根区会」で検索
トップページ「コロナ」の下
のボタン

<https://aonekukai.jimdo.free.com/>

●青根緊急連絡

システムでも活用開始。



自主防災組織による地域住民への情報発信

■2020/9/26 緊急連絡システム発信の内容 ※文面一部要約

第1報：18時50分 川崎町土砂災害警戒レベル3発令。ただし笹谷方面。青根地域はレベル2。青根地域の雨量は、本日9時から19時までの10時間で12.2mm。グリーンズ/八南地域一部で側溝溢れと道路冠水。

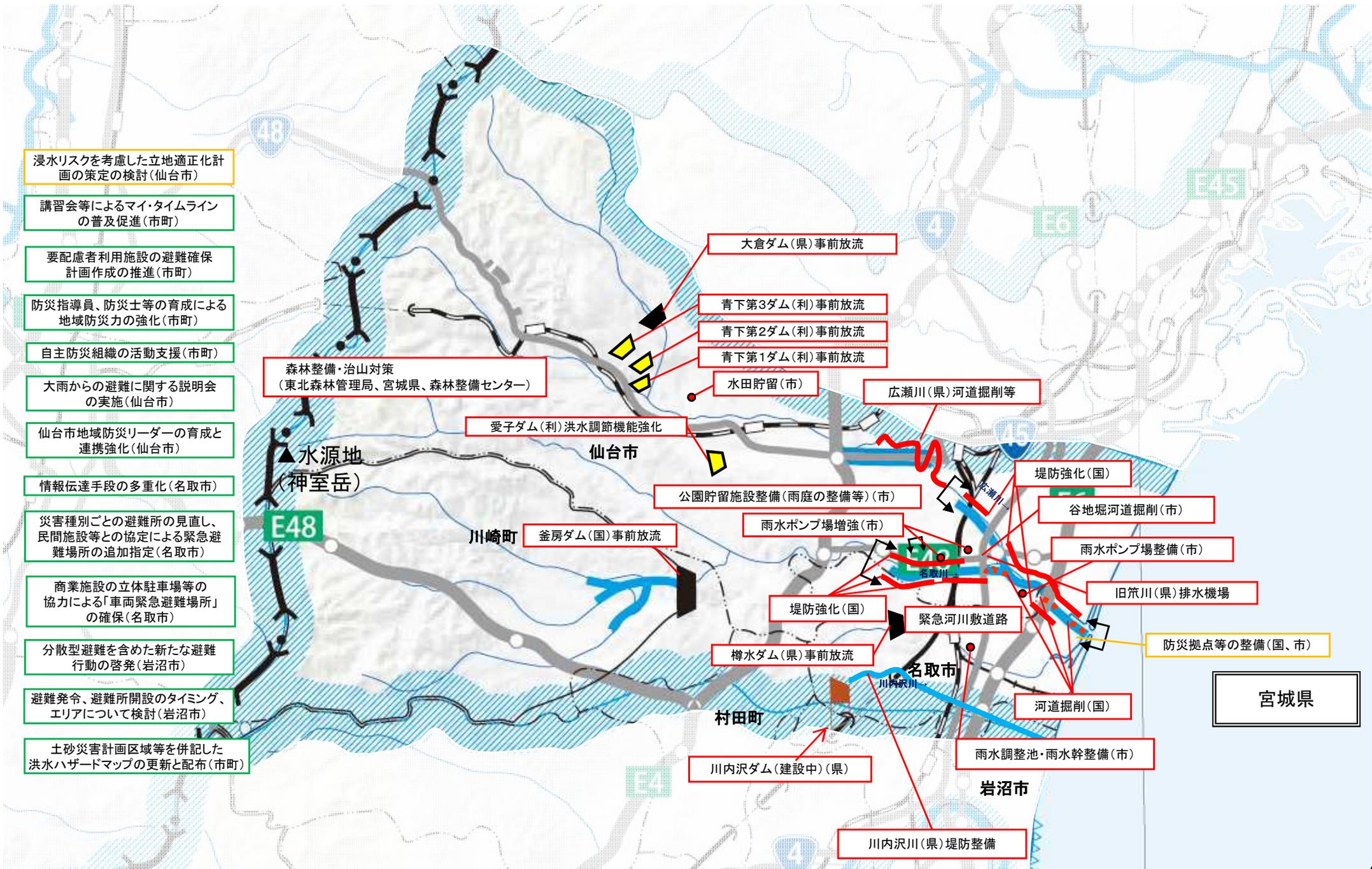
第2報：19時27分 川崎町大雨警報発表。河川や側溝、道路の冠水に十分注意を。21時頃まで雨が強く降る見込み。19時20分 蔵王町土砂災害警戒レベル3発令。青根温泉から遠刈田温泉までの国道457号線はできるだけ避けましょう。

第3報：21時27分 気象警報全て解除。大雨注意報、洪水注意報継続中。引き続き、青根温泉から遠刈田への国道457号線は、明日朝までできるだけ避けるようにしてください。

<お知らせ>

25日に川崎町総務課より雨量計が届き、青根地域の1時間ごとの雨量が観測できるようになりました。今後、危険の判断として活用できるように、しばらくデータを集めて研究します。

名取川水系流域治水プロジェクト【位置図（詳細版）】



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

名取川水系流域治水プロジェクト

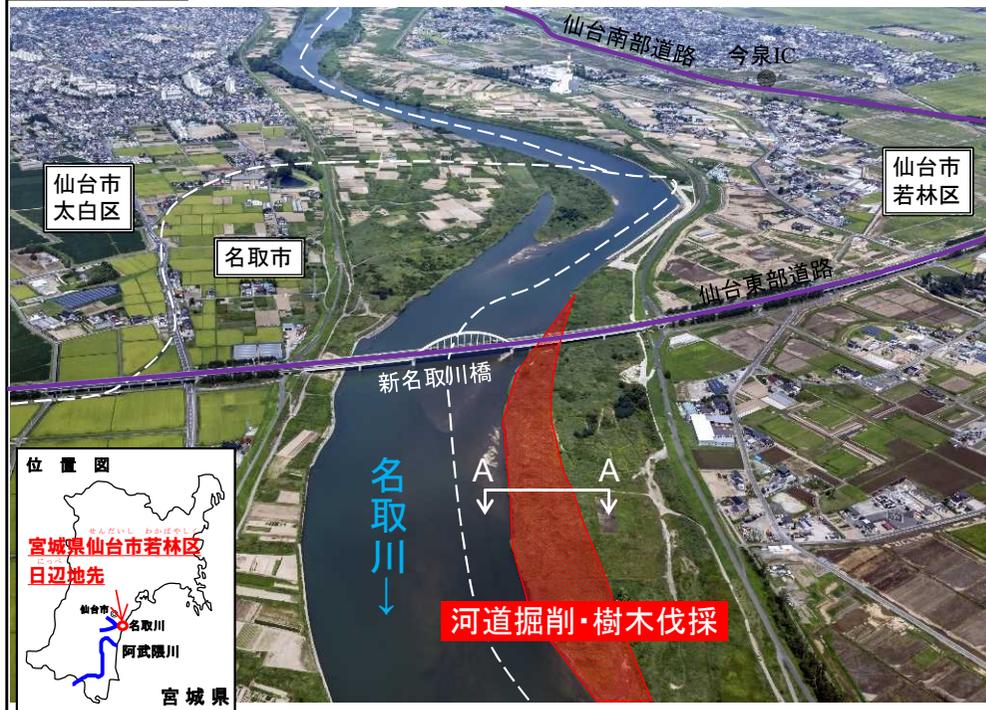
① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川における対策(河道掘削)

- 河道の断面積の確保や河道安定のため「河道掘削」を実施

【仙台市若林区 日辺地区河道掘削】

対策内容



対策前

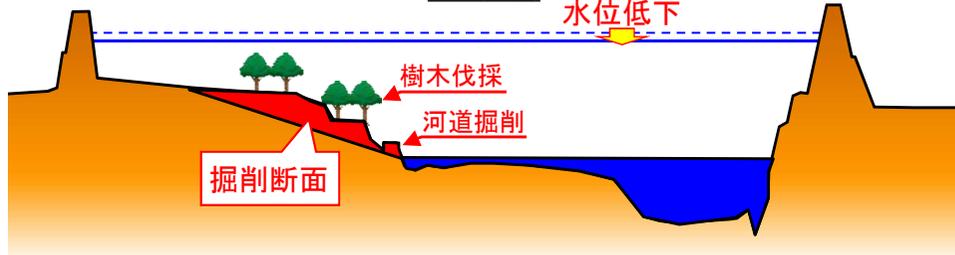


対策後



横断面(河道掘削イメージ)

A-A断面



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

河川における対策(堤防強化)

- 河道の目標流量を安全に流下させるため「堤防強化」を実施

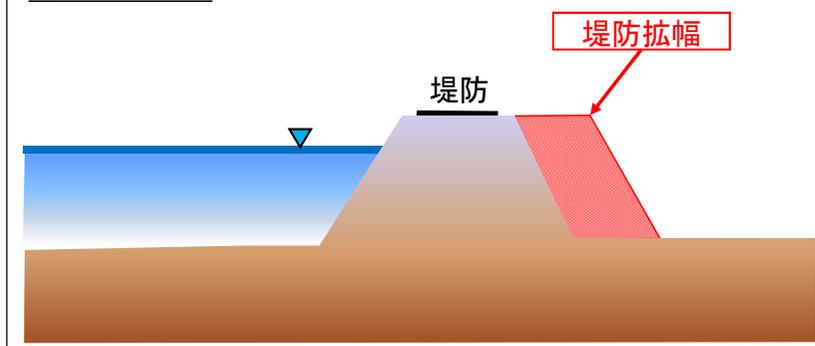
【仙台市若林区 日辺地区堤防強化】



● 日辺地区

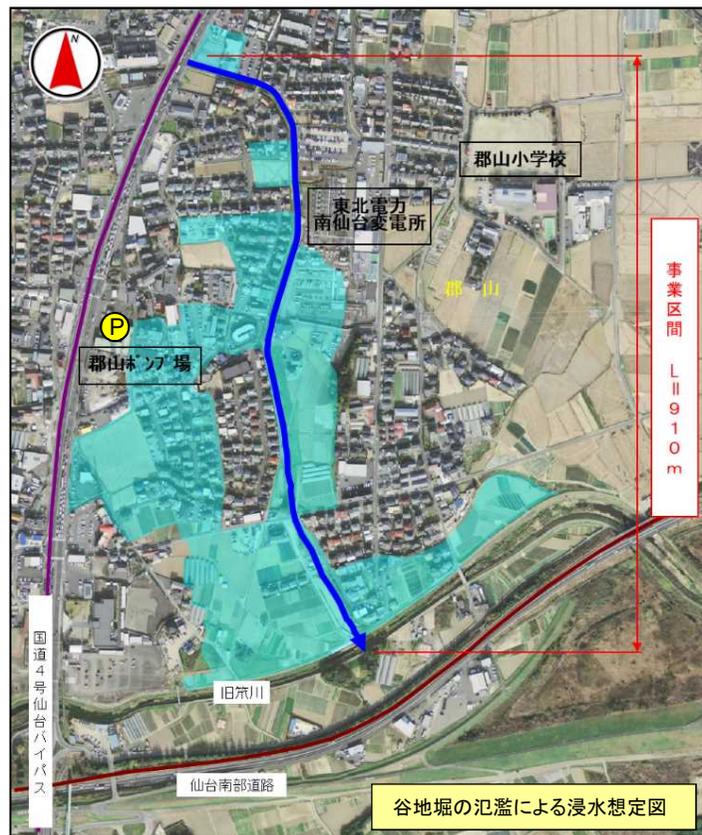
近年出水名	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)	集落孤立化有無	浸水面積(ha)	公共交通機関
想定はん濫	5,851	7,700	全域浸水	4,180	国道冠水

整備イメージ図



谷地堀、雨水ポンプ場の増強

【準用河川谷地堀改修事業】



河川氾濫による道路冠水



河川の流下能力不足



整備前(旧策川合流部)



整備後



◆事業の背景・目的

谷地堀流域は主に水田、畑であったが、宅地化の進行により雨水流入量が増え、度々浸水被害が発生していたことから、平成11年度より流下能力向上を目的とした河川改修事業を進めている。

◆事業の概要

10年確率降雨に対応した河道計画とするため、川幅の拡幅、河床の掘り下げを実施すると共に、多自然川づくりに基づいた環境配慮型護岸整備を実施している。

■ 下水道の排水施設(雨水ポンプ場増強)



施設名	郡山ポンプ場
雨污水別	合流式
施設位置	太白区郡山字籠ノ瀬19-5

◆事業の背景・目的

郡山ポンプ場は、昭和44年に運転を開始し、現在も長町・郡山地区の汚水の送水及び同地区の雨水を名取川へ放流する役割を担う仙台市南部の基幹ポンプ場である。

しかし、現行の整備水準である10年確率降雨に対応した能力を有しておらず、市街地で度々浸水被害が発生している。そこで治水安全度向上を目的にポンプ場の能力増強をめざす。

雨庭の整備

大雨時の市街地の浸水被害軽減のため、雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地中や河川に流す、公園緑地空間の整備「**雨庭（あめにわ）**」に取り組んでいく。

社会資本整備総合交付金「仙台市みどりの拠点となる都市公園整備の計画」による公園貯留整備事業の一環

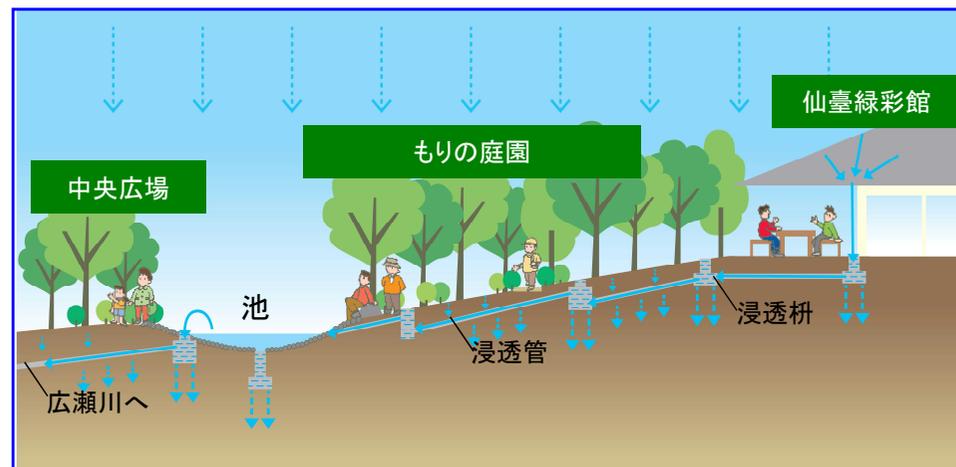
青葉山公園追廻地区

「もりの庭園」整備における『雨庭』の取り組み

仙台市では、自然環境が持つ機能を社会課題の解決に生かす「グリーンインフラ」の一環で、この『雨庭』の取り組みを市内の官民施設にさらに広げていく方針。

その第1号として、青葉山公園の一角に整備を進める「仙臺緑彩館」の隣接区域を活用して、近年求められている雨水流出抑制機能をもたせた、「もりの庭園」を整備する。

『雨庭』の整備イメージ



公園敷地内に、浸透枮と浸透管を埋設し、庭園内には底部に浸透性を持たせた池、透水性舗装を用いた遊歩道を整備。降った雨水を、浸透機能を持たせた各施設から地中に逃がし、さらに池で一時的な貯留を行うことで、ゆっくりと時間をかけて広瀬川に排出するしくみ。

期待される雨庭の機能

- ・水害の軽減
- ・ヒートアイランド現象の緩和
- ・生物の生息空間の創出
- ・水質の浄化 など

せんだいりよくさいかん
青葉山公園 仙臺緑彩館・もりの庭園全景
R5.4全国都市緑化仙台フェア メイン会場



※『雨庭』とは、地上に降った雨水を直接放流することなく、一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った緑地。雨水流出抑制、修景・緑化の推進、ヒートアイランド現象の緩和などが期待される。(※京都市ホームページより参考引用。)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留施設整備：増田調整池

◆事業の背景（H26,27の浸水概要）

- ・増田地区は名取市の中心に位置する住宅地域
- ・道路冠水は最大60cmに達し、交通機能が麻痺。



増田地区浸水状況



日時	平成26年 台風19号 H26.10.13~10.14	平成27年 台風18号 H27.9.10~9.11
最大降雨量 (mm/h)	46.5	36.0
床上床下 浸水戸数	0	0
最大冠水深 (cm)	60cm	45cm

※消防署雨量計による計測値

◆事業の目的

増田第8排水区は、名取駅北東部に位置し、交通の利便性が高く、住宅が密集した名取市の中心市街地であるとともに、市の消防本部を区域内に有する地区である。

県道仙台名取線(旧国道4号)から国道4号バイパスまでの約440m 区間における雨水幹線の整備、下流側既設水路および接続先の承水路(放流制限有)の流下能力が保たれるよう調整池を整備し、**未整備区域である29.7haの浸水軽減**を図るものである。

平成21年度に市街地の雨水排水現況調査、その結果を踏まえ、平成25年度から調査・設計、平成28年度に貯留施設下流側の管渠整備を行い、**平成29年度より貯留施設の整備に着手**している。

◆事業内容：増田8-1排水区(新設)

【計画概要】 幹線函渠 L≒440m 貯留施設 V=4,500m³

【排水区面積】 29.7ha

【事業期間】平成25年度 ~ 令和5年度



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

森林が持つ公益的機能の維持などを図るための森林整備(保育管理)

- 水源のかん養などの機能を維持するため、仙台市などにおいて植栽木の成長阻害を防ぐため下刈などの施業を実施

位置図



仙台市



【整備内容】

- 植栽木が被圧されないよう雑草木を刈払
- その他、間伐などにより樹木の成長を促し、健全な森林の形成を図る。

名取川水系流域治水プロジェクト

②被害対象を減少させるための対策

防災拠点等の整備

- 東日本大震災では、大規模な河川堤防の崩壊・亀裂・沈下等の被害が発生しました。その際、応急復旧等に要する資材の調達に困難を極めたため、名取川の災害時の緊急復旧活動を実施する拠点として、閉上地区河川防災ステーションを整備しました。
- 平成27年度より、国土交通省と名取市が連携し整備を進めてきた『名取川閉上地区河川防災ステーション』が完成(令和3年3月竣工)し、現地において完成施設のお披露目を行いました。
- 平常時にも、備蓄材や資材の展示を行うことで見て触れられる体験学習の場となるような広場を整備して過去の災害の教訓を学ぶ場として活用していきます。

▼ 名取川閉上地区河川防災ステーションのお披露目

名取市長、仙台河川国道事務所長の挨拶状況

開会・お披露目の様子 令和3年6月30日



▲名取市長 挨拶



▲施設概要の説明

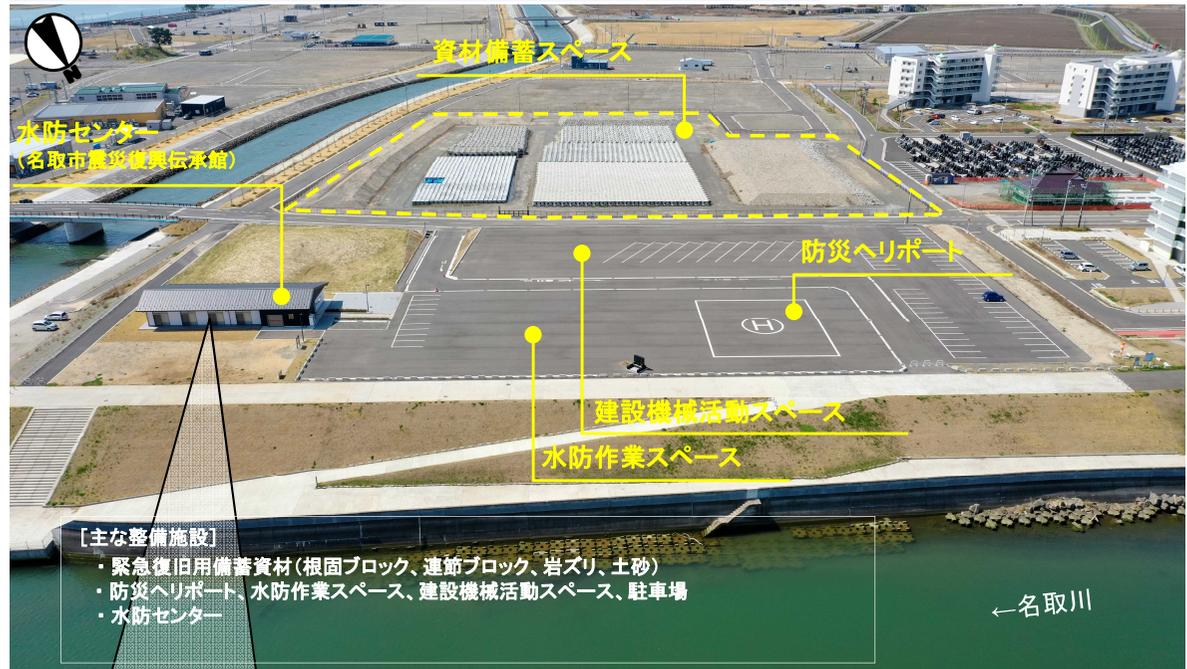


▲仙台河川国道事務所長 挨拶(令和3年度当時)



▲展示の災害対策用機械を見学する参加者

▼ 名取川閉上地区河川防災ステーションの整備状況



▼ 名取川閉上地区河川防災ステーション利用イメージ

- 閉上地区河川防災ステーション施設利用イメージ【災害時】
○ 水防活動や災害発生時の復旧活動に迅速に対応できる活動拠点として利用します。
- 閉上地区河川防災ステーション施設利用イメージ【平常時】
○ 資材備蓄は南側エリアに集約し、北側エリアは多目的に活用することができます。



水防センター(震災復興伝承館)

大震災の記憶と教訓を風化させず、後世に残していくために、記録で知る津波「津波の真実」や、これまでの復興の歩み、全国からの沢山の支援の記録、自然災害を知り今後の防災意識に生かすための「防災教育展示」など行っています。また同時に、「震災当日どのような体験をしたのか」といった、地元住民の方々による語り部団体等の活動場所としても利用されています。

備蓄資材一覧

- 大型連結ブロック 4,700個
- 消波根固めブロック(w=2t) 4,700個
- 消波根固めブロック(w=4t) 98個
- 備蓄材(土砂) 11,900m³
- 備蓄材(岩ズリ) 8,500m³

2021年3月現在

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

名取川水系流域治水プロジェクト

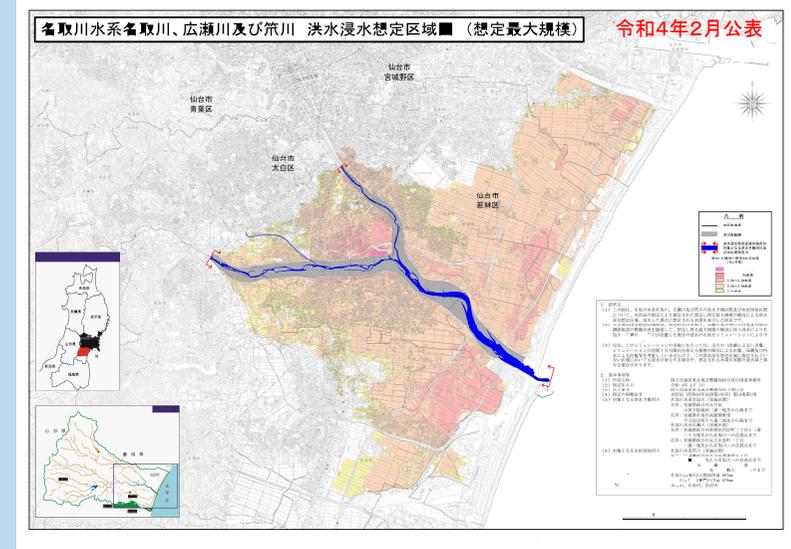
③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

住民の安全確保を目指す「流域治水」

浸水想定等の水害リスク情報を早期に更新し、避難体制の強化

◆名取川水系名取川、広瀬川及び笹川 浸水想定区域図の見直し【国】

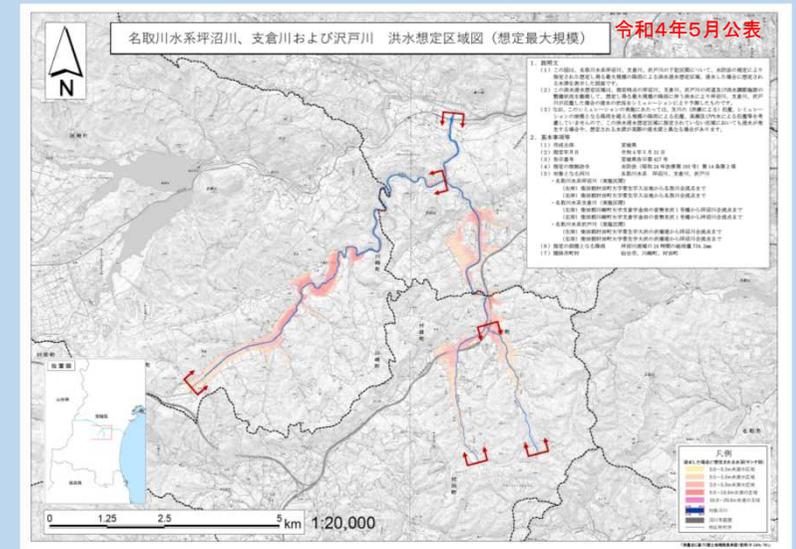
- 名取川水系では、東北地方太平洋沖地震(H23.3.11)の復旧・復興事業が進められており、洪水浸水想定区域図を検討していた平成27年度時点は、10年間の事業の中間年であった。
- 令和2年度は、復興・創生期間の最終年であり、関連事業も完成を迎える。
- これにより、当時(平成27年度)から道路盛土構造物などのインフラ整備が進み浸水範囲・浸水深が大きく変わること、令和2年に航空レーザー測量により地形測量を実施した結果、地形データに相違が見られたことを踏まえ、令和4年2月に浸水想定区域図の見直しを行った。



水害リスク情報の空白地帯を解消し、避難体制の強化

◆洪水浸水想定区域図の新規作成・変更【宮城県】

- 宮城県では、平成29年度より、想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を指定・公表を進めている。
- 名取川水系では、令和4年度出水期までに、洪水予報河川、水位周知河川、住宅等の防護対象のある河川(その他河川)について、7河川の指定・公表が完了している。
- 名取川水系では、令和5年度出水期までに、4河川について、洪水浸水想定区域図を新規作成・変更し、公表予定としている。



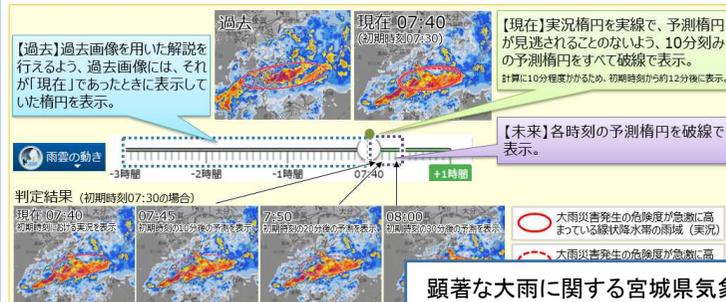
■ 気象情報の改善の取組

- 大雨(浸水害)及び洪水警報・注意報基準の見直し(1991-2020の降雨及び災害データによる見直し)
 - ・令和5年出水期前に新たな基準で運用開始
 - ・関係機関における適時適切な防災対応に資する

○「顕著な大雨に関する気象情報」の改善(予定)

- ・線状降水帯による顕著な大雨について
 令和5年出水期からは直前予測による情報発表(従来は線状降水帯発生後に情報発表)
- ・関係機関におけるリードタイムを確保

・「顕著な大雨に関する気象情報」の発表条件に達した地域を地図上で大まかに把握できるように、気象庁HPの「雨雲の動き」、「今後の雨」の地図上に赤楕円で、予測の段階から表示する。



顕著な大雨に関する宮城県気象情報 第1号
 令和〇年〇月〇日〇時〇分 仙台管区气象台発表

宮城県では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続く見込みです。
 命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

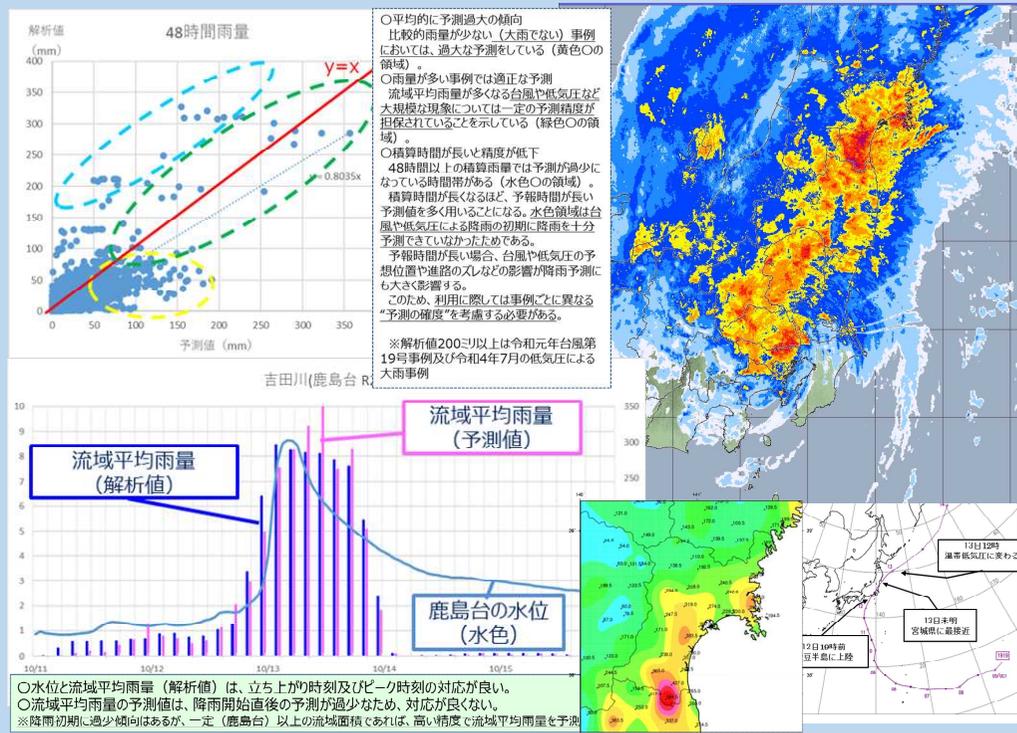
※「顕著な大雨に関する情報」改善のイメージ

■ 関係機関と連携した取組

- 流域平均雨量(解析値・予測値)の特性と水位に関する調査及び調査結果の共有(国直轄河川)(仙台河川国道事務所・北上川下流河川事務所と連携)
- 洪水キキクル・リスクラインの統合・公開(予定)(国土交通省水管理・国土保全局、気象庁の連携)
- 流域タイムライン策定への支援(随時)(河川管理者、市町村等、関係機関との連携)



※洪水キキクル・リスクライン統合のイメージ



※流域平均雨量・水位等調査のイメージ

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

自主防災組織の体制強化等：青根地区自主防災会の取り組み支援

- ・令和元年東日本豪雨では釜房ダム管理所の雨量計において総雨量328ミリを記録。
- ・青根温泉近くの別荘地では道路に多量の雨水が流出し多くの住民が大雨の脅威を感じた。
- ・当該地区は震災以前から自主防災組織が設立されるなど防災意識の高い地区であったが、この経験を受け移住者有志を中心にさらに防災に対する意識が高まった。
- ・少量の降雨であっても山から大量の水が押し寄せる場所も散見されること、青根地区周辺に雨量観測所がないことから、自主防災組織より町に対し雨量計の設置について要望があり雨量計の貸与を行った。
- ・これにより、気象庁の警戒レベル発表を待つことなく自主防災組織による自主避難情報などが発信され、加えて大雨発生の前に雨水流出場所への土嚢設置、消防団による警戒活動など住民主体の防災体制が確立されている。

川崎町（総務課）の“自主防災モデルケース”

雨量計を設置

- 雨量データ測定開始！
1時間単位で記録。
- 雨量データ公開開始！
「青根区会」で検索
トップページ「コロナ」の下のボタン
<https://aonekukai.jimdo.free.com/>
- 青根緊急連絡システムでも活用開始。



雨量計設置状況(防災組織HPより)

自主防災組織による地域住民への情報発信

■2020/9/26■ 緊急連絡システム発信の内容 ※文面一部要約

第1報：18時50分 川崎町土砂災害警戒レベル3発令。ただし笹谷方面。青根地域はレベル2。青根地域の雨量は、本日9時から19時までの10時間で122mm。グリーンSPA南地域一部で側溝溢れと道路冠水。

第2報：19時27分 川崎町大雨警報発表。河川や側溝、道路の冠水に十分注意を。21時頃まで雨が強く降る見込み。

19時20分 蔵王町土砂災害警戒レベル3発令。青根温泉から遠刈田温泉までの国道457号線はできるだけ避けましょう。

第3報：21時27分 気象警報全て解除。大雨注意報、洪水注意報継続中。引き続き、青根温泉から遠刈田への国道457号線は、明日朝まではできるだけ避けるようにしてください。

<お知らせ>

25日に川崎町総務課より雨量計が届き、青根地域の1時間ごとの雨量が観測できるようになりました。今後、危険の判断として活用できるように、しばらくデータを集めて研究します。



令和元年東日本豪雨時の別荘地内の道路

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

防災意識の啓発：マイタイムライン作成

- ・宮城県柴田農林高等学校川崎校及び川崎町立川崎第二小学校において国土交通省作成の教材「逃げキッド」を活用してマイタイムラインに関する講習会を実施。
- ・柴田農林高等学校川崎校では教職員並びに地域の自主防災組織役員、川崎第二小学校では教職員並びに児童が参加。
- ・大雨時に通勤、通学で危険となる箇所や、台風発生から到来までの間にやるべきことの順序などを確認した。
- ・今後は学校だけではなく、自主防災組織などでもマイタイムライン作成講習会の開催へと展開していく。



○柴田農林高等学校川崎校
東北地方整備局の職員から助言を受けマイタイムラインの作成を行う受講者



○川崎第二小学校
町防災担当者の説明に熱心に耳を傾ける児童

防災体制の強化：宮城県防災指導員養成講習会を活用した防災指導員の養成

- ・村田町と合同で川崎町を会場に宮城県防災指導員養成講習会を開催。
- ・自主防災組織となる「自主防災会」の役員31名が参加し、宮城県防災指導員の認定を受けた。
- ・今後の新規指導員の養成の他、現指導員のスキルアップ講習会を開催し、さらに共助の中核を担う人材の育成を図っていく。

「川内二地区自主防災会」での様子



テーマを元にグループごとに話し合いを行う受講者



取りまとめた内容を代表者が発表しグループ相互の情報共有を図る

名取川水系流域治水プロジェクト案一覧表

主な取組メニュー	主な取り組み項目	対策メニュー	実施主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	河道掘削	国・県・市町			
		堤防強化	国・県			
		緊急河川敷道路	国			
		川内沢ダム建設	県			
	内水氾濫対策	排水機場整備	県			
		準用河川等の整備	市町			
		雨水貯留施設の整備	市町			
		雨水ポンプの整備	市町			
	流水の貯留機能の拡大	利水ダムによる事前放流等の更なる推進	国・県・市町等			
	流域雨水貯留機能の向上	森林整備、治山対策	国・県 森林整備センター			
公園貯留施設の整備		市町				
ため池の治水活用		市町				
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	防災拠点等の整備	国			
		浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定の検討	市町			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	洪水浸水想定区域図の作成・見直し	国・県			
		ハザードマップやマイ・タイムライン等の策定	市町			
		洪水ハザードマップの周知及び防災教育の推進	市町			
		マイ・タイムラインの作成支援、講習会の実施	市町			
		要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・指導	市町			
		災害情報ツールの多重化	市町			
		分散型避難を含めた新たな避難行動の啓発	市町			
		避難発令、避難所開設のタイミング、エリアについて検討	市町			
		避難所の安全性や居住性の確保、民間施設との利用協定	市町			
		自家用車による避難場所の確保、民間施設との利用協定	市町			
		自主防災組織の育成や活動支援、連携強化	市町			
防災士等の資格取得推進や地域防災リーダーの育成	市町					

市町の実情に応じた減災の取り組み



仙台市

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

洪水氾濫対策

- ・準用河川の整備(谷地堀 H11~)

内水氾濫対策

- ・雨水ポンプ場の整備(郡山ポンプ場)

流域の雨水貯留機能の向上

- ・公園貯留施設の整備
- ・農業用ため池監視システムの構築(R2~)

■ 被害対象を減少させるための対策

水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫

- ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定の検討

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化

- ・大雨からの避難に関する説明会の実施
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成推進
- ・仙台市地域防災リーダーの育成と連携強化
- ・ワークショップ等によるマイ・タイムライン普及促進
- ・土砂災害警戒区域等を併記した洪水ハザードマップの配布



岩沼市

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化

- ・マイ・タイムラインの普及に向けた意見交換会の実施(R2~)
- ・分散型避難を含めた新たな避難行動の啓発
- ・避難発令、避難所開設のタイミング、エリアについて検討
- ・防災士の育成



名取市

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流域の雨水貯留機能の向上

- ・雨水貯留施設等の整備(増田第8排水区 H25~)

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化

- ・洪水ハザードマップ、マイ・タイムラインなどを掲載した「市民防災マニュアル」を全戸配布(R2.9)
- ・情報伝達手段の多重化。「災害用ハッシュタグ」の導入(R2.11)
- ・災害種別ごとの避難所の見直し、民間施設等との協定による緊急避難場所の追加指定(R元~)
- ・商業施設の立体駐車場等の協力による「車両緊急避難場所」の確保(R2~)
- ・自主防災組織の支援
- ・防災指導員の養成・増員



川崎町

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化

- ・自主防災組織の活動支援(青根地区自主防災会)
- ・マイ・タイムラインの作成支援、講習会の実施(R3~)
- ・防災指導員の育成



村田町

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化

- ・土砂災害計画区域を加えた洪水ハザードマップを更新(R2.7)
- ・自主防災組織の連携強化と情報共有のための協議会設立
- ・防災指導員を育成し増員する